

# 自分たちで生活

自分の家を離れ、子どもたちだけで生活しながら学校に通った通学合宿。「自分の身の回りのことは自分でする」「そんな1週間の集団生活の中で子どもたちは、自主性や協力し合うこと、行動することの大切さを身をもって感じた。

## 1週間の集団生活に小学生21人が参加

自分の家を離れ、1週間の集団宿泊体験をする通学合宿が、6月20日から26日、日野町下菅にある日野高校寄宿舎「至誠寮」で行われました。通学合宿には、町内の小学5・6年生21人が参加。子どもたちは、合宿所で集団生活をしながら学校に通いました。

## 自分を見つめ直し自立する心を育てる

この通学合宿の目的は、家族と離れて過ごすことで、「家族と自分」、集団生活の中で「友だちと自分」について考え、自分を見つめ直す。また、掃除や洗濯など自分の身の回

りのことは自分でするということで、自ら考え自ら行動する「自立する気持ち」を育てようとするものです。

## 規則正しい生活は朝6時起床から始まる

朝6時に起床し、掃除や朝食を済ませて学校へ。いつもどおりに学校生活を送り宿舎に帰る。夕食後、午後7時から地域の人や先生の話を聞く「オセの話」や学習の時間。洗濯や入浴して午後10時には就寝というスケジュールの中で1週間を過ごしました。

## 不安な気持ちは消え自主性が芽生える

入寮時は、全員不安な表情

でしたが、3日目以降になると生活にも慣れたり仲間も増え「毎日が楽しい。家も恋しくない」と話していました。

このころから空いた時間の過ごし方を考え「今の時間を使って洗濯していいですか」などと自主性や行動力が見えてきました。緊張感が薄れてきたのもこのころで時間を守れず怒られたりもしました。合宿生活も終盤を迎えるころには、食事当番でもないのに自分から進んで準備を手伝ったりと協力体制や仲間とのきずなも深まりました。

## 子どもたちを支えた親的存在の食改さん

1週間、朝夕の食事を任された町食生活改善推進協議会



至誠寮

1週間集団生活をした日野高校寄宿舎「至誠寮」。日野町下菅にあり、多くの日野高校生が巣立っていった。

(以下食改)。育ち盛りの子どもたちを思い栄養バランスに気を使いました。特に朝食については「米飯」にこだわりました。子どもたちの朝食はパン1枚で終わり。そんな食生活に慣れているということで、朝食の大切さについて感じてもらい、正しい食生活を身につけてもらおうと「米飯」にしました。

食改さんは「正直、残飯が相当でると思った」と話していました。初日からほぼ全員が完食。子どもたちは「朝食を食べるといつもより頭がスッキリ」と話していました。食改さんは、毎朝4時に起きて自宅の朝食準備をしてから午後5時過ぎに合宿所に集まり、子どもたちの食事を作りました。また、子どもたち



盛りつけの仕方を教える食改さん

に「昨日は眠れた?」「学校はどうだった?」と心配そつな子どもには声を掛けたりと母親的な存在でした。

## 今までの自分考えるきっかけに

1週間の通学合宿を通して、子どもたちは「今、何をしようか行動すればいいの?」「助け合う気持ちと我慢すること」や友だちが手際よく洗濯する姿や黙々と勉強する姿を見て、今までの自分について考えるきっかけになりました。この通学合宿は、県内では4年前から各町で取り組まれていますが、日野町では初めての試みということで、食事も余った時間、その意義など多くの課題が残りました。